



“かわまちづくり”について

国土交通省 中部地方整備局
木曾川下流河川事務所 工務課
令和3年10月

かわまちづくり とは

「かわ」とそれにつながる「まち」を活性化するため、地域の景観、歴史、文化及び観光基盤などの「資源」や地域の創意に富んだ「知恵」を活かし、市町村、民間事業者及び地元住民と河川管理者の連携の下、地域の「顔」、そして「誇り」となるような空間形成を目指す取組。

モノ

コト

ヒト

「かわまちづくり」支援制度（平成21年度創設）

【目的】

「河川」とそれに繋がる「まち」を活性化するため、地域の景観、歴史、文化及び観光基盤などの「資源」や地域の創意に富んだ「知恵」を活かし、市町村、民間事業者及び地元住民と連携の下、実現性の高い水辺の整備・利用に係る取組みを、河川管理者が支援し、「河川空間」と「まち空間」が融合した良好な空間形成を目指すことを目的とする。

【推進主体】

河川管理者と連携して「かわまちづくり」を推進する主体は、次のいずれかに該当するもの

- ① 市町村 ② 市町村及び民間事業者 ③ 市町村を構成員に含む法人格のない協議会

【河川管理者が行う支援の内容】

1. ソフト施策

- ① 「かわまちづくり」の実現に向けて必要となる調査・検討
- ② 全国の良好な整備事例やその後の活用について、推進主体に情報提供
- ③ イベント施設やオープンカフェの設置等、河川敷地の多様な利用を可能とするため、準則22による都市・地域再生等利用区域の指定等を支援

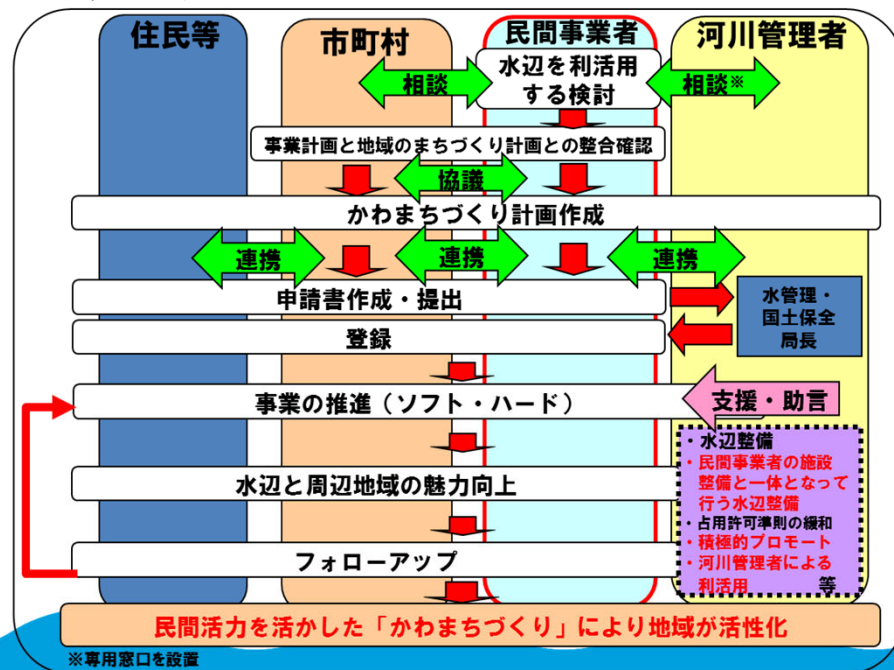
2. ハード施策

まちづくりと一体となった治水上及び河川利用上の安全・安心に係る河川管理施設の整備
事業着手後、概ね5年間で積極的に推進

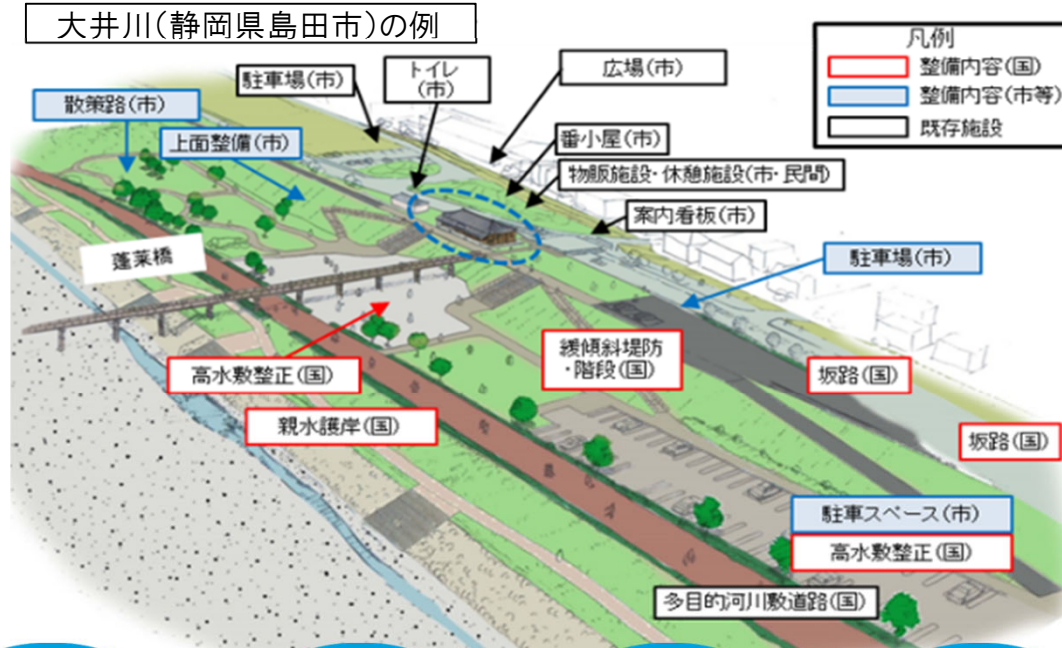
時期尚早

登録件数(R2年度末現在)
全 国 238地区

【申請に関する手順フロー】



大井川(静岡県島田市)の例



※ハード整備は、河川管理者のみでなく、市町村等も連携して施設整備を行う。

そもそも『まちづくり』とは

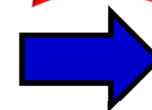
既存の「まち」を良いものに「つくり」変えていくこと

そこに暮らす人々が

(本質)

- ◆ もっと楽しく過ごしたい！
- ◆ 安心して暮らしたい！

自分事



実現

主役は住民。住民の参加が必須

目指すべきもの

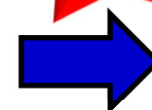
桑名市総合計画（地方自治体における行政運営の最上位の計画）
ビジョン1. 中央集権型から全員参加型の市政に

行政が

(実態)

- ◆ 都市の将来像を想定し
必要な規制や誘導
- ◆ 鉄道、道路等インフラ整備

他人事



実現

ハード整備優先

豊かさ(意識)の変化



UR都市機構webより

高度経済成長期

- ◆ 戦後復興
- ◆ 目に見えるものに幸せ（豊かさ）を求める時代

衣 食 住

生活様式・価値観の変化
(要求・ニーズの変化)

テクノロジーの進化

現在

- ◆ 経済成長の鈍化
- ◆ 目に見えないものに幸せ（豊かさ）を求める時代

行政だけでは
実現困難

衣 食 住 遊 休
知 美 健 交



ミズベリングwebより
(リバーポートパーク美濃加茂)

地域の方々の思考(日常性・ポジティブ)

出典 / 河川財団「水辺の安全ハンドブック」
Illustration / 山下 航



地域住民

河川空間のイメージ

洪水への影響
ダメ

入ると危ない
ダメ

河川＝厳格に管理された空間



綺麗に整備しただけでは×

利用申請をするたびに、禁止事項を挙げられて玉砕（あるある）

→ まずは、公共空間の使い方を探る

河川管理者の思考(非日常性・ネガティブ)



災害発生



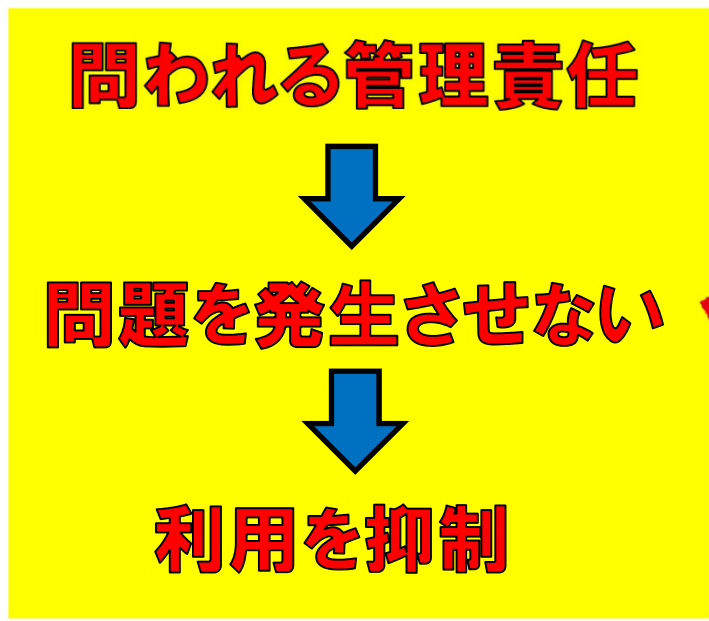
不法投棄



水難事故



河川管理者



迷惑行為

まず、求められるものは・・・

相互理解と協働 他人事から自分事へ

- お互いの違いを認め、それぞれを尊重
- 多様な主体がまちづくりに積極的に参加し相互に連携
- 組織や企業の枠を超えたコラボレーションが
新たな価値を創造する「オープンイノベーション」

『他人事』から『自分事』へ ~公共空間があるべき領域~

自分事

公共空間が
あるべき領域

自分の問題(責任)として捉え、様々な主体と繋がって自ら行動することで、社会や個人の新たな利益を生み出す領域にある**交響空間**

公共

個人

今の公共空間の位置

「公共性」を意識するあまり、法律(河川法など)や他人任せにして責任を伴わない領域にある**公共空間**

他人事

“やらせる勇気”と“やる責任”



地域の事業者が主体的に企画段階から参加して、水辺を活用する社会実験を試行。
河川管理者は防災に関する啓発だけでなく、ライフスタイルとして水防災とのつきあい方などを提案
水辺の利活用、地域活性化や賑わい創出だけでなく、水防災意識の醸成を図る

荒川：水辺フェスタ赤羽岩淵の事例

水辺で
食べる!

飲食販売コーナー

飲食販売やバーベキュー



飲食休憩スペース

水辺アクティビティ

水辺で
体験!

河川管理施設等の解説付
「荒川ミニクルーズ」

アクセスティンギー
(小型ヨット)体験

水辺で
学ぶ!

防災体験会
(水門見学)

主体的な行動

楽しむ＝自発的に参加する動機

- ◆ “楽しそうに見えるところ”に人は集まる（アタリマエ）
- ◆ “楽しそうなこと”には人が継続的にやってくる

⇒人が継続的にあつまるとそれが
まちの風景になる

協議会メンバー合同で社会実験を！！

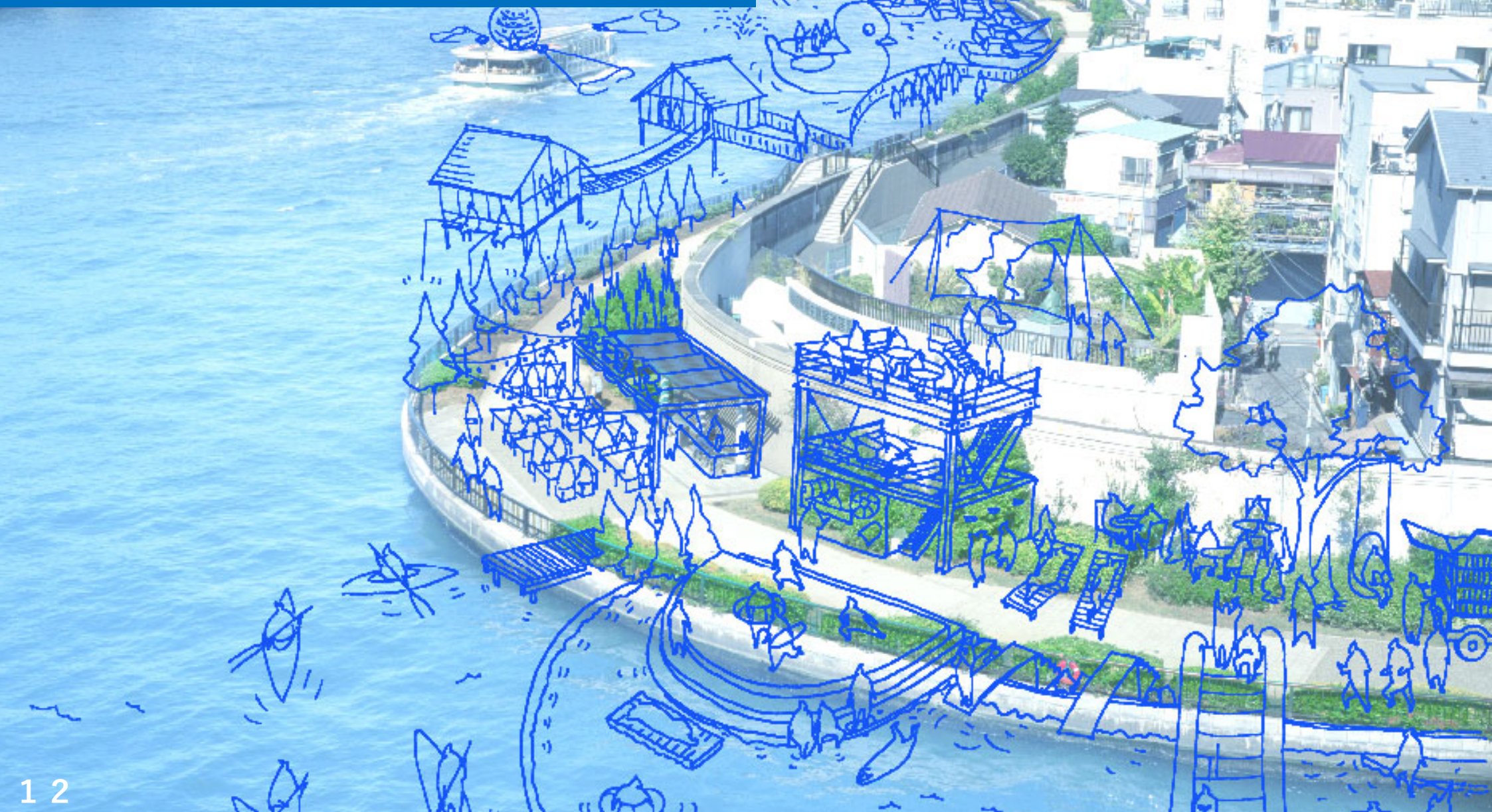
まずは自ら体験しませんか？



EボートやSUPで
川の流れ、風や景色を体験

妄想会議で“やりたい！”
“あったらいいな！”を話し合う

公共空間が変わると エリアのイメージ まちの価値があがる





川ろうぜ!

It's about time we get involved in our river .